

令和2年度 指定管理鳥獣捕獲等事業

基本評価シート

(鳥取県 生活環境部 緑豊かな自然課)

基本評価シート（ニホンジカ）

1. 事業の基本情報

事業名（※1）	令和2年度鳥取県指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画策定調査業務		
	令和2年度鳥取県指定管理鳥獣（ニホンジカ）捕獲等事業業務		
	令和2年度鳥取県ハンター養成スクール運営業務		
	令和2年度ジビエ利用拡大のための狩猟捕獲支援事業委託業務		
都道府県名	鳥取県	担当者部・係名	緑豊かな自然課
担当者名	木山	担当者連絡先	0857-26-7979
捕獲実施事業者	（一社）鳥取県猟友会 （認定を受けている・ 受けていない）	予算額（※2）	75,851,206円
		予算額の内捕獲に 要する経費（※3）	61,826,600円

（※1） 交付金を用いて実施した事業名を記入。複数ある場合は、事業件名ごとに記入。

（※2） 予算額は、交付金の対象となる指定管理鳥獣捕獲等事業の全体予算を記入する。

（※3） 予算額の内、捕獲に要する経費は、平成28年度から適用される交付金所要額調書様式1-2「2 指定管理鳥獣の捕獲等」の内訳を記入。その他にも、捕獲に要する経費がある場合は、別途加算する。

○令和2年度における生息等の状況及びこれまでの個体群管理の取組み

〈指定管理鳥獣捕獲等事業の実績〉

事業目標 (目標頭数などの数値目標)	実施結果	
	捕獲頭数	目標達成率
2,100頭	2,321頭	111%

〈生息等の状況及びその他の捕獲実績〉

推定生息頭数	特定計画管理目標	目標生息頭数
51,627頭（令和元年度末）	年間捕獲目標 9,000頭以上	令和5年度に 14,026頭 （平成23年度から半減）
狩猟捕獲数	許可捕獲(有害)	許可捕獲（個体数調整）
418頭※	7,482頭※	0頭

※速報値（令和3年6月16日時点）

○これまでの個体群管理の取組み（都道府県単独事業）

<ul style="list-style-type: none"> ・ 狩猟期間の延長（11月1日から翌年の2月末日まで） ・ くくりわなの輪の直径の禁止の解除 ・ 有害鳥獣捕獲に対する捕獲奨励金の交付（通年） ・ 兵庫・岡山・鳥取の3県連携による「シカ捕獲強化月間」の設定（10月）及び県境域での捕獲強化
--

環境への影響への配慮	<p>わなによる錯誤捕獲について</p> <input checked="" type="checkbox"/> 錯誤捕獲の情報を収集している。 <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の実態は不明である。
	<p>わなによる錯誤捕獲の未然防止について</p> <input checked="" type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策をしている。 (内容：クマの錯誤捕獲防止のため、捕獲したシカの速やかな処理や、クマ痕跡確認時はわなの作動を一定期間停止する等の措置を講じていることとしている。イノシシについては捕獲許可(個体数調整)を付与している。) <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策はしていない。
	<p>鳥類の鉛中毒等について</p> <input checked="" type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例がない。 <input type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例が確認されている。
	<p>鉛製銃弾について</p> <input checked="" type="checkbox"/> 全て鉛製銃弾を使用している。 <input type="checkbox"/> 一部、非鉛製銃弾を使用している。 <input type="checkbox"/> 全て非鉛製銃弾を使用している。
安全管理の体制	<p>捕獲従事者に対する安全管理研修の実施、緊急時の連絡体制の整備等の事故防止対策が図っている。</p>
捕獲従事者の体制	<p>【雇用体制】 捕獲従事者数： 216人 (内訳) 正規雇用者： ー 人、期間雇用者： ー 人 日当制： ー 人</p>

3. 令和2年度指定管理鳥獣捕獲等事業の評価

○指定管理鳥獣捕獲等事業の達成状況の評価について

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標達成】	評価： 実施計画は目標頭数を2,100頭として策定し、捕獲事業の契約頭数は2,229頭となった(頭数の差は積算の精査による)。捕獲実績は2,321頭となり、目標達成率は111%となった。
	改善点：引き続き、予算額を踏まえて目標頭数を設定し、捕獲事業の適正な実施により目標達成に努める。
【実施期間】	評価： 新型コロナウイルスの影響等により捕獲開始が前年度より1か月遅い8月上旬となったが、例年に比べ捕獲数が多い月が続き、11月下旬に契約頭数に達したため、捕獲作業を終了した。
	改善点：引き続き、十分な実施期間を確保できるよう、実施計画策定や契約手続き等の早期実施に努める。
【実施区域】	評価： 主な生息域である県東部区域では、前年を84頭下回ったが、2年連続で2,000頭に達する捕獲があった。県中部・西部区域では前年を約50頭上回る321頭の捕獲実績が得られた。
	改善点：個体数抑制と分布拡大防止のため、次年度以降も県全域の奥山地域での事業実施を継続する。
【捕獲手法】	評価： 11月下旬に事業終了し、積雪の影響を受けなかったこともあり、わなによる捕獲が87%となった。メスの比率はわな猟41%、銃猟50%であり、メスジカ捕獲には銃猟の方がやや効果的と思われる。
	改善点：どちらの捕獲方法にも利点があるため、引き続き銃・わな両方での捕獲を継続する。
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価： 実施区域が県境付近の奥山地域である上、東部から西部まで県全域に渡るが、十分な捕獲従事者を配置し捕獲実績を確保できた。
	改善点：この体制を次年度以降も継続する。また、中長期的な捕獲体制の維持のため、ハンター養成スクール等により狩猟者の確保・育成に取り組む。
【個体処分】	評価： 捕獲個体2,321頭のうち、食肉加工施設への持ち込みが784頭(37%)、自家消費が463頭(19%)と有効活用された。
	改善点：捕獲個体の多くが有効活用されており、搬出可能なものは引き続き施設への持ち込みや自家消費を拡大を進める。なお、県全域での捕獲数増加と有効活用のためには、獣肉加工施設や焼却施設の充実(地域偏在の解消等)も必要である。
【環境配慮】	評価： 捕獲地が奥山であり711頭(28%)が埋設処理された。
	改善点：引き続き受託者に適正な処理の徹底を指導する。
【安全管理】	評価： 捕獲従事者に対する安全管理研修の実施、緊急時の連絡体制の整備等の事故防止対策が図られている。
	改善点：引き続き受託者への安全管理の徹底を指導する。
3. その他の事項に関する評価及び改善点 (特になし)	

4. 全体評価

今期は県全域の奥山地域において8月上旬から捕獲を開始した。1月あたりの捕獲が例年に比べ多く、11月下旬までの4か月間で目標の2,100頭を超える捕獲実績を上げ、本県のシカ捕獲に大きく寄与した。

モニタリング調査によると、県中部・西部にもシカの分布拡大や森林植生の衰退が見られることから、次年度以降も県全域の奥山での捕獲を継続し、有害捕獲や狩猟と合わせてシカの捕獲強化を進めることとする。

■ニホンジカ捕獲数の推移

(単位：頭)

区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2 速報※
有害捕獲	3,587	5,646	5,370	4,149	3,846	4,676	6,076	7,482
狩猟	1,404	822	528	951	1,034	712	659	418
指定事業	—	—	199	2,174	1,827	2,131	2,351	2,321
計	4,991	6,468	6,097	7,274	6,707	7,519	9,086	10,221

※令和3年6月16日時点

※「改善点」の欄には、評価結果を次期の指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画にどう反映するか等について記入する。

○第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

県内のシカ捕獲数は、令和元年度に管理計画の目標頭数である9,000頭を初めて達成したが、令和2年度は更に増加して10,221頭となり、2年連続で管理計画の目標を達成した。そのうち本事業による捕獲は23%を占め、目標達成に寄与している。

シカ個体数の抑制のためには、目標頭数9,000頭以上の捕獲を継続することが必要であることから、本事業を継続し更なる捕獲強化を図る必要がある。

4. 必須となる記録項目

(1) データの整備状況

ア) 基礎となる記録項目の整備状況

指定管理鳥獣捕獲等事業において整備している情報の項目にチェックをつける。

項目	整備状況	備考
①捕獲数・目撃数・捕獲努力量等の位置情報	<input checked="" type="checkbox"/> 行政区域（都道府県・市町村）ごと <input type="checkbox"/> 事業区域ごと <input checked="" type="checkbox"/> 5 km メッシュ <input type="checkbox"/> 1 km メッシュ <input type="checkbox"/> 捕獲地点（緯度経度） <input type="checkbox"/> 捕獲等に関する位置を記録していない	
②捕獲数	<input checked="" type="checkbox"/> 捕獲した個体の総数 <input checked="" type="checkbox"/> 雌雄の別 <input checked="" type="checkbox"/> 幼獣・成獣の別 <input type="checkbox"/> その他捕獲した個体に関する情報（ 	
③目撃数	<input checked="" type="checkbox"/> 作業の従事者が目撃した個体の総数	
④捕獲努力量	<input checked="" type="checkbox"/> 銃猟：のべ作業人日数※ <input type="checkbox"/> わな猟：わな稼働日数 （わな稼働日数＝わな基数×稼働日数）	※わな猟は「のべ作業人日数」のみ把握している（広域・長期間の事業であり、稼働日数の正確な把握は困難）

※のべ作業人日：捕獲作業期間中に捕獲に従事した作業人数の合計。事前調査や下見に費やした作業の人日数は除く。

イ) 捕獲に関する概況地図の作成の可否

	作成できる概況図（地図）※についてチェック
捕獲位置の地図	<input type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input checked="" type="checkbox"/> 捕獲位置の地図を作成できない
CPUE の地図	<input type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input checked="" type="checkbox"/> CPUE の地図を作成できない
SPUE の地図	<input type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input checked="" type="checkbox"/> SPUE の地図を作成できない
概況図を作成する上での課題	捕獲位置の5 kmメッシュ地図は、翌年度の調査業務の中で作成している（評価書提出時期（6月末）までの作成は労力的に困難なため添付できない）。CPUE と SPUE の5 kmメッシュ地図の作成は、必要性も含め、受託者との調整が必要（必要なデータは概ね収集している）

※概況図は原則として添付する。添付できない場合は「作成できない」をチェックする。

(2) 実施結果 (必須となる記録項目)

ア) 捕獲努力量に関する事項

①銃器による捕獲

外業の人日数総数※1: 810 人日

事前調査人日数概数※2: - 人日 (把握していない)

出猟 (捕獲作業) 人日数: 810 人日

項目	令和2年 (事業年度の値)	令和元年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量 (銃猟) のべ人日数	810人日	1,031人日	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟 (捕獲作業) 日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

②わなによる捕獲

外業の人日数総数※1: 8,048 人日

事前調査人日数概数※2: - 人日 (把握していない)

出猟 (捕獲作業) 人日数: 8,048 人日

項目	令和2年 (事業年度の 値)	令和元年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量 (わな猟) わなの稼働総数 (わな基×日数) 【参考】のべ人日数	(不明) 基日 8,048人日	(不明) 基日 10,292人日	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟 (捕獲作業) 人日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

イ) 捕獲に関する結果

①銃器による捕獲

項目	令和2年 (事業年度の値)	令和元年 (前年度の値)	増減の傾向
①捕獲数	305頭	355頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
②目撃数	831頭	746頭	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
③雌雄比 (雌捕獲数/全捕獲数)	50% (153/305)	61% (216/355)	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
④幼獣・成獣比 (幼獣数/全捕獲数)	14% (43/305)	25% (89/355)	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少

令和2年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別(銃器)の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	作業人日数 ^{※1}	CPUE ^{※2}	SPUE ^{※3}
<input type="checkbox"/> 誘引狙撃	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input checked="" type="checkbox"/> 巻き狩り	0頭	23人日	0頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少	0.783頭/人日 <input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input checked="" type="checkbox"/> 忍び猟	305頭	787人日	0.388頭/人日 <input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	1.033頭/人日 <input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> モバイルカリング	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 夜間銃猟	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他 ()	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1：作業日数には捕獲を実施していない誘引期間は含まない。

※2：CPUE=捕獲数/のべ人日数

※3：SPUE=目撃数/のべ人日数

※CPUE、SPUEは前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

②わなによる捕獲

項目	令和2年 (事業年度の値)	令和元年 (前年度の値)	増減の傾向
①捕獲数	2,016頭	1,996頭	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
②雌雄比 (雌捕獲数/全捕獲数)	42% (836/2,016)	39% (772/1,996)	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
③幼獣・成獣比 (幼獣数/全捕獲数)	17% (340/2,016)	24% (471/1,996)	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少

令和2年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別(わな)の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	わな稼働総数※1	CPUE※2
<input checked="" type="checkbox"/> くくりわな	1,997頭	(不明) 基日	(不明) 頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input checked="" type="checkbox"/> 箱わな	17頭	(不明) 基日	(不明) 頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input checked="" type="checkbox"/> 囲いわな	2頭	(不明) 基日	(不明) 頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他 ()	— 頭	— 基日	— 頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:わな稼働総数には捕獲を実施していない誘因期間は含まない。

※2:CPUE=捕獲数/わな稼働日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

エ) 捕獲個体の適切な処理

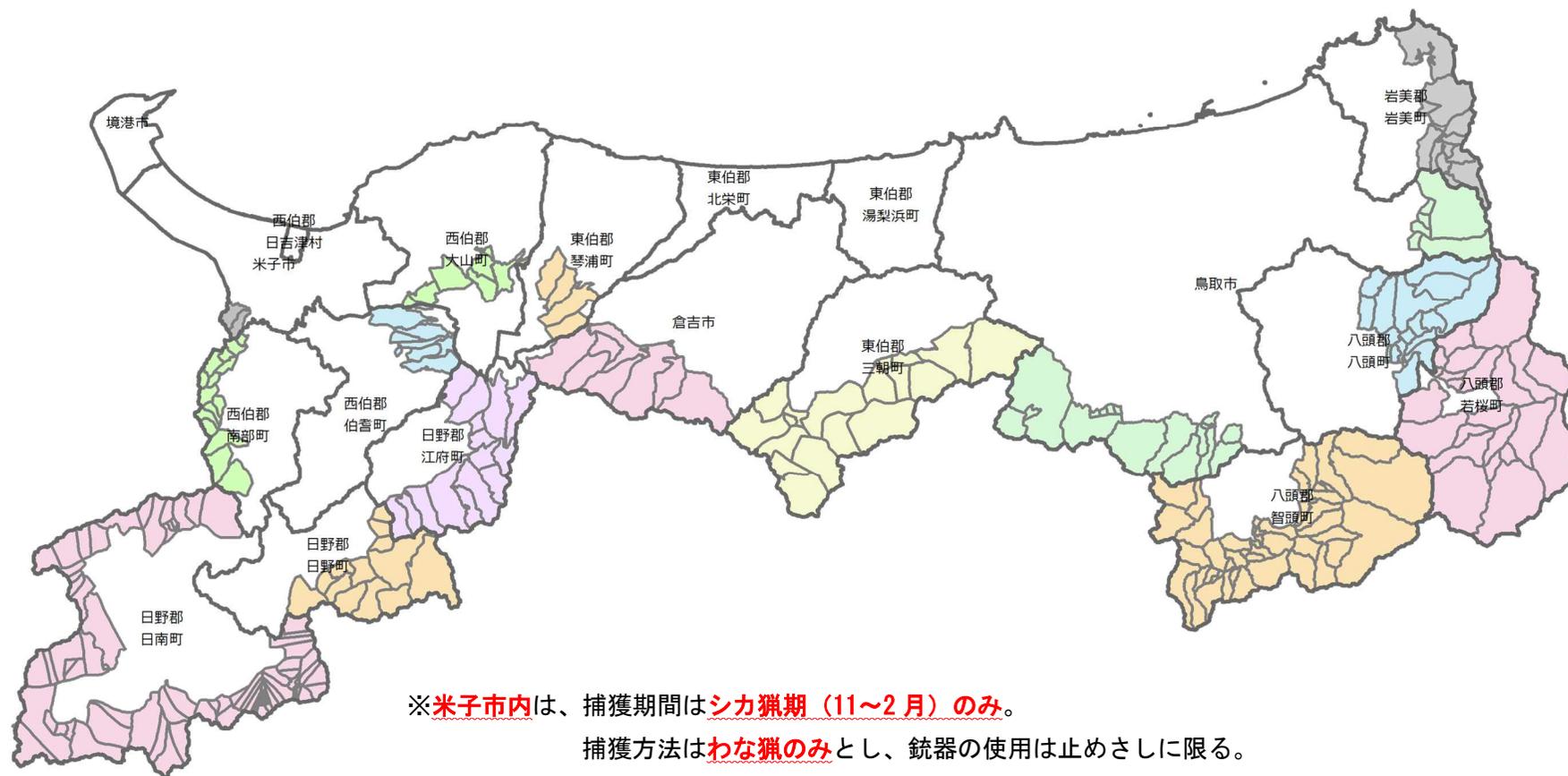
処理にかかる人工概数: — 人・時間 (把握していない)

処理した個体のうち、食肉等への活用した個体の数量概数: 1,247 個体

適正な捕獲が実施されたかを確認する手法

捕獲の証拠物として、写真と尾の提出を義務付けている。

令和2年度 指定管理鳥獣（ニホンジカ）捕獲等事業 実施区域図



※実施区域は、令和元年度と同一である（変更なし）。

令和2年度 指定管理鳥獣捕獲等事業

付属評価シート

付属評価シート（ニホンジカ）

付属評価シートでは、基本評価シートを補足する資料として、事業の費用対効果、個体群に与えた効果、環境への負荷等評価する。特に、指定管理鳥獣捕獲等事業に直接関係する項目は、指定管理鳥獣捕獲等事業の単年度の事業評価に直接的に関係する情報として、収集することを推奨する項目である。

1. 指定管理鳥獣捕獲等事業に直接関係する項目

(1) 費用・労力に関する項目

事業に要した費用に対する実施結果の評価は、単に、捕獲頭数当たりの総事業費で算定をするのではなく、捕獲や捕獲以外に要している労力を加味した評価とすること。

費用・労力に関する評価項目		定量的評価の算定	評価する上での課題等
捕獲作業に割ける労力		捕獲経費のしめる割合＝捕獲経費÷総事業費 (73%) = (45,493,890円) / (61,989,400円)	
事業全体の中で捕獲作業以外に割く労力	事前調査に要する労力	以下、該当する算定方法にチェックをいれる。 <input checked="" type="checkbox"/> 調査等の事業費÷総事業費 (諸経費 4,174,000円) / (61,989,400円) <input type="checkbox"/> 総人工数に対する調査に要する人工数の割合 (調査人工概数) / (総人工数) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (委託費に直接経費の8%以内として計上)	
	移動に要する労力	<input type="checkbox"/> 最も遠い作業場所において、一日当たりに要した移動時間と捕獲作業のために確保できた実働時間の例を記入 (移動時間) + (実働時間) <input checked="" type="checkbox"/> その他の算定方法 (捕獲作業時間の5%分の時間の自動車運転経費を計上)	
	捕獲個体の処分に要する労力	以下、該当する算定方法にチェックをいれる。 <input checked="" type="checkbox"/> 処理費÷総事業費 (6,687,000円) / (61,989,400円) <input type="checkbox"/> 総人工数に対する処分に要する人工数の割合 (処分人工概数) / (総人工数) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (1頭あたり0.2人日分の人件費を計上)	

(2) 個体数の推定等に用いた生息密度指標 (CPUE、SPUE を除く)

指定管理鳥獣捕獲等事業の実施区域内において定点のある生息密度指標調査について、該当項目チェック欄にチェックする。

項目	生息密度指標チェック欄	備考
生息密度	<input type="checkbox"/> 区画法 <input type="checkbox"/> 糞粒法 <input checked="" type="checkbox"/> 糞塊法 <input type="checkbox"/> ライトセンサス法 <input type="checkbox"/> 無人撮影装置 <input type="checkbox"/> その他 ()	生息密度指標の値を記載する。
密度指標を、地理情報で把握している。	<input checked="" type="checkbox"/> 5km メッシュ <input type="checkbox"/> 1km メッシュ <input type="checkbox"/> 地点 (緯度経度) <input type="checkbox"/> 定点	生息密度指標を図化できる場合、概況図を添付する。

※ニホンジカについて、経年的に生息密度を比較するための指標として糞塊法が有効であると考えられており、これまで実施してきた調査手法と合わせ、糞塊法による調査も有効であると考えられる場合は、当交付金事業で行う生息密度指標の調査は、糞塊法による調査の実施を検討願います。

(3) 自然植生への影響の軽減に関する項目

ア) 指定管理鳥獣捕獲等事業の事業区域内の植生被害状況の基礎的な調査

指定管理鳥獣捕獲等事業の事業区域内の植生被害の情報は、事業効果の測定のための基礎的な情報となる。特に、事業初年度の情報は極めて重要で、後年の事業の効果測定のための最も基礎的な情報の一つであることから、何らかの情報を収集しておくべきである。下記のチェック項目に示す定量的なデータの他、定量的なデータを取れない場合は、事業区域内の代表的な地点の写真及び撮影位置（地点と撮影方向）を記録して、地図情報として整理しておくだけでもしておいた方がよい（後年、同じ場所で同じ方向からの写真が撮れれば、比較可能である）

事業区域内における 収集項目	事業実施前又は初年度 の情報の有無	備考
①下層植生の被度	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	事業初年度の情報は後年の事業の効果の評価の基本となる。
②指定種の被度や個体数	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
③保全対象種の被度や個体数	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
④低嗜好性植物の割合	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
⑤ブラウジングラインの形成	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
⑥土壌流出	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
⑦事業区域内の植生被害状況の写真	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	

イ) 被害状況の基礎的な調査

数値としてのデータがない場合でも、事業開始時点の事業地の写真は、位置情報を記録した上で取得すべきである。その際、撮影位置と撮影向きが、後で分かるように記録を取得しておく。

事業区域内における収集項目	事業開始時点の値	今年度の値	増減の傾向
①下層植生被度	63% (5/8 メッシュ)	33% (3/9 メッシュ)	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
②指標種の被度や個体数	—	—	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
③保全対象種の個体数	—	—	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
④低嗜好性植物の割合	—	—	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
⑤ブラウジングラインの形成	42% (5/12 メッシュ)	0% (0/9 メッシュ)	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
⑥土壌流出	—	—	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

ブラウジングラインは、「1：なし」、「2：不明瞭」、「3：明瞭」の3段階で評価。

土壌流出は、「1：ほとんどなし」、「2：にわかにより」、「3：あり」、「4：顕著」の4段階で評価。

※上表は、捕獲数が多く、27年度から継続して捕獲を行っている八頭地域のデータで作成した。

※①は植被率評点が3未満と低いメッシュの割合。

※⑤はブラウジングライン評点が0.6以上のメッシュ数

※②、④は基データの再集計をすれば作成可能。

(4) 捕獲にともなう環境への影響の評価

下記項目に関し、環境への影響に関する課題を記入する。その定量的な評価のために収集している項目があればチェックをする。集計した結果がある場合は、別添に添付する。

項目チェック欄	環境への影響に関する課題	定量的評価の算定例 (算定可能な項目にチェック)
鳥類の鉛中毒症例の把握	特になし	<input type="checkbox"/> 収容した鉛中毒症例個体の種類・数
鉛中毒防止の措置	特になし	<input type="checkbox"/> 非鉛弾の使用のための経費を計上 <input type="checkbox"/> 非鉛弾使用数を把握
錯誤捕獲の実態 錯誤捕獲が想定される鳥獣種：イノシシ、ツキノワグマ	(錯誤捕獲を未然に防止するための措置) 毎日のわな見回り、クマ痕跡確認時のわな作動停止等、クマの錯誤捕獲防止への対応について仕様書に明記。	<input type="checkbox"/> 改良したわなの設置数
	(錯誤捕獲個体に対する措置) ○イノシシ あらかじめ捕獲許可手続き(個体数調整)を行い、殺処分。 ○ツキノワグマ 原則放獣とし、県が委託した専門業者により放獣作業を実施。	<input checked="" type="checkbox"/> 非標的種の種類 <input checked="" type="checkbox"/> 非標的種の捕獲頭数 <input checked="" type="checkbox"/> 放獣した頭数 <input type="checkbox"/> 傷病の状況

(5) 鳥獣保護管理に係る専門家の活用状況

活用した段階ごとに、活用した登録区分の人数と活用概要を記入する。なお、活用した人数には、直接検討委員を嘱託した場合だけでなく、委託業者の従事者や事業に係る意見やアドバイスを求めた者も含めて差し支えない。活用概要には、人材登録者の取組も含めて、具体的な活用内容を記載する。

登録者の一覧は環境省 HP (<http://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort1/effort1-1/index.html>) を参照のこと。

活用した段階	専門家の 総数（数）	活用した専門家のうち、人材登録者の数			活用概要
		プランナー	コーディネーター		
			調査	捕獲	
計画の検討・策定 (必要な調査を含む)		2	2	1	生息密度指標調査、 森林植生衰退状況 調査、個体数推定の 実施
捕獲	—	—	—	—	
捕獲手法の技術開発	—	—	—	—	
捕獲情報の整理・分 析、事業評価・検証		2	2	1	各種調査・分析結果 の整理、個体数推 定・将来予測を実 施、今後の課題等 の提案。
認定事業者等の育成	—	—	—	—	

2. その他の参考情報

以下は、中長期的に評価すべき項目だが、指定管理鳥獣捕獲等事業を実施し、評価する上で重要な周辺情報として、収集する事が望まれる項目である。指定管理鳥獣捕獲等事業やその上位計画である第二種特定鳥獣管理計画の目的達成状況を計るための指標となる項目でもある。下記は、基本的に、情報の有無をチェックするものである。ただし、事業地内の植生等の被害状況は、重要な情報であるため、事業開始時点の情報がある場合は、現状を記録する。

(1) 農業被害の防止に関する項目

収集項目	情報の有無	備考
農業被害金額	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
農業被害面積／農地面積	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
農地面積	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
林業被害金額	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
林業被害面積	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
被害対策経費	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
被害者意識アンケート	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
電気柵の設置距離	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
防護柵の設置距離	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	

(2) 生活被害の防止に関する項目

収集項目	情報の有無	備考
交通事故件数	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
列車事故件数	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
事故による死傷者数	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
事故位置情報	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
市街地目撃情報	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	

(別紙 7)

鳥取県におけるジビエ利用拡大を考慮した狩猟者の育成に係る評価報告

1 狩猟者の現状や課題等

- 中山間地域における有害鳥獣の被害は深刻であるが、現場の対策を担う狩猟者は高齢化等により減少しており、特にシカ・イノシシの捕獲の即戦力となる若手や銃猟者の確保・育成は喫緊の課題となっている。
- このため当県では、補助事業等により、狩猟免許取得や射撃練習・技能講習に係る費用の支援等を進めてきたところ。
- その結果、近年、新規狩猟免許取得者は、若手を中心にわな猟、銃猟ともに増加傾向にあり、高齢化が進んでいた狩猟者の若返りが進みつつある。
- 一方、狩猟免許取得後に、どのように捕獲を始めたら良いか分からないとの声もあり、捕獲技術の習得・向上が課題となっている。
- また、当県の重要施策であるジビエ利用の推進に当たっても、適切に放血等を行った捕獲個体の安定供給が重要であり、捕獲と処理技術を持った狩猟者の育成が求められている。

2 1の課題等に対応するため、本事業で実施した取組内容

- 狩猟免許取得後の新人ハンターを捕獲の即戦力として育成することにより、捕獲体制の強化、ジビエ利用の拡大等を図るため、「ハンター養成スクール」を開校し、捕獲技術から獲物の解体・ジビエ利用までの実践的な技術を身につけるための講習や現地実習を行った。
- なお、本スクールは平成 28 年度から実施しており、令和 2 年度が 5 期目。
 - ①実施期間：令和 2 年 7 月～令和 3 年 3 月（講義は 9～11 月）
 - ②実施回数：全 8 日（カリキュラムは次ページのとおり）
 - ③受講者数：33 名

注：実施した研修会等の内容及び参加人数等を記入すること。

3 2の取組に対する評価と今後の課題等

■評価

- これまでの受講実績は、のべ 190 名（H28：35 名、H29：30 名、H30：46 名、R1：46 名、R2：33 名）。平成 30 年度から年齢制限を廃止（H28, 29 は 50 歳未満）。昨年度はコロナ禍での実施であったが一定数の申込があり、狩猟者からの高いニーズが伺えた。
- 受講生からは、受講後、初めて捕れた、捕獲数が増加したとの声が多数あり、アンケートの解答からも高い満足度が伺えた。
- これまでの卒業生は、捕獲等の担い手として各方面で活躍中（地元猟友会で狩猟や有害捕獲に参加、ジビエ加工施設の新規開設、若手狩猟者団体の立ち上げなど）。

■今後の課題等

- 満足度・効果ともに高いため継続実施とするが、より効果的な事業とするため、これまでの受講生の要望も踏まえてカリキュラムの一部見直しを検討する（わな製作実習の充実化等）

注：1の課題等も踏まえ、取組の評価を具体的に記入すること。

また、評価を通じ明らかになった今後の課題等についても記入すること。

4 その他

(特になし)

注：特記すべき事項があれば記入すること。

令和2年度 鳥取県ハンター養成スクール 全カリキュラム

回	日程 [開催場所]	講習・実習テーマ	講習・実習内容	わな猟 コース	銃猟 コース
第1回	9/27(日) [倉吉市]	わなによる捕獲技術① 銃器による捕獲技術①	●基本技術と安全管理(わな猟・銃猟) ●箱わな・くくりわな設置実習(室内)	○	○
第2回	10/3(土) [倉吉市]	銃器による捕獲技術②	●大型獣の銃猟に必要な装備と道具 ●模擬銃による射撃実習(室内) ●銃猟の安全管理、違反・事故事例解説	-	○
第3回	10/10(土) [岡山県真庭市]	射撃練習 (湯原国際射撃場)	●射撃場における安全管理やマナー ●静的射撃・動的射撃の基礎理論・実習	-	○
第4回	10/25(日) [倉吉市]	わなによる捕獲技術②	●箱わな・くくりわなの捕獲手順と安全管理 ●くくりわな作製実習	○	-
第5回	11/8(日) [倉吉市]	わなによる捕獲技術③	●安全な保定と止めさし ●わな猟のための山歩き(実習)	○	-
第6回	11/14(土) [鳥取市]	銃器による捕獲技術③	●銃猟の種類と特徴・注意点 ●銃猟のための山歩き(実習)	-	○
第7回	11/21(土) [鳥取市]	銃猟実習	●銃猟(巻き狩り)実習 ※ 事前に狩猟者登録が必要です。 ●銃猟実習まとめ	/	○
第8回	11/22(日) [鳥取市]	ジビエ利用のための衛生 管理、解体実習	●ジビエ利用のための衛生管理 ※ 止めさし、血抜き等実習 ※ イノシシ解体実習、ジビエ試食など	○	○

鳥取県におけるジビエ利用拡大のための狩猟捕獲支援に係る評価報告

1 本事業で実施した取組実績

(1) 狩猟捕獲経費支援の取組

- 受託者名：(一社)鳥取県猟友会
- 捕獲頭数

獣種	支援を行った捕獲頭数	狩猟全体における捕獲頭数(速報値)
イノシシ	131	1,384 (R1:1,994)

※ニホンジカは対象としなかった。

(2) 処理加工施設における取組

- 受託者名、捕獲頭数等

受託者名(施設名称)	持込を行った狩猟者数(人)	受け入れた捕獲個体数(頭)	廃棄物処分量(kg)
シンボタンの会(イノシシ食肉解体処理施設)	7	27	230.0
わかさ29工房	7	17	300.9
ちづDeer's	2	3	56.5
日本猪牧場	15	62	305.6
大山ジビエ振興会(大山ジビエ工房)	8	58	1073.0
計	36(のべ39)	167	1,966.0

※講習会等は実施していない。

注1：(1)の取組実績として、受託者名、ニホンジカ及びイノシシ別に支援を行った捕獲頭数実績及び狩猟全体における捕獲頭数等を記入する。

注2：(2)の取組実績として、受託者名(施設名称)、講習会等の指導内容、開催回数、参加人数、持込を行った狩猟者数、受け入れた捕獲個体数(ニホンジカ及びイノシシ別)及び廃棄物処分量等を記入する。

2 1の取組による効果や評価と今後の課題等

■効果・評価

- 平成30年度までは、狩猟期間中のイノシシ捕獲に対する支援制度が無い市町が多かったため、本事業により捕獲推進とジビエ利用推進の両面で一定の効果があった。
- 令和元年度以降は、豚熱対策や集中捕獲キャンペーンとして狩猟期間中のイノシシ有害捕獲に対する奨励金制度が設定され、狩猟期も有害捕獲を行う狩猟者が増加したため、狩猟捕獲及び本事業の利用は大きく減少した。※狩猟者の少ない本県では、その大半が有害捕獲従事者
- また、本事業と有害捕獲の両方があることで、狩猟者の混乱を招き、狩猟者に説明する市町村や搬入される個体の仕分けを行うジビエ施設にも負担となった。
- シカについては、本事業より高額の有害捕獲奨励金が通年で支払われ、狩猟捕獲が見込めないため、シカを本事業の対象とする施設は無く、シカの捕獲強化にはつながらなかったことから、令和元年以降は事業の対象としなかった。

■今後の課題等

- 狩猟期のイノシシ有害捕獲に対する奨励金制度の設定により、本事業の利用者が大幅減少するとともに、狩猟者や市町村、ジビエ施設の混乱や負担となったことから、令和2年度限りで終了することとした。

注：1の取組による効果や取組の評価を具体的に記入すること。

また、評価等を通じ明らかになった今後の課題等についても記入すること。

3 その他

注：特記すべき事項があれば記入すること。